

令和3年度第5回南相馬市小高区地域協議会 会議録

- 1 日 時：令和3年9月24日（金）  
午後2時00分～3時30分
- 2 場 所：浮舟文化会館 ホール

【出席委員名 11名】

会 長	林 勝典	委 員	小牛田 一男
副会長	阿部 貞康	委 員	室原 真二
委 員	橘 由美子	委 員	杉 重典
委 員	小林 友子	委 員	末永 義人
委 員	今村 秀身		
委 員	西山 喜代子		
委 員	田中 由里子		

【欠席委員 4名】

委 員	本田 博信	委 員	飯塚 宏
委 員	堀内 洋伯	委 員	半谷 恵美子

●南相馬市職員

小高区役所長	山田 利廣
小高区地域振興課長	佐藤 浩一
小高区地域振興課おだかぐらし担当課長	志賀 和浩
小高区市民総合サービス課長	武田 智芳
小高区地域振興課自治振興担当係長	烏中 いずみ
小高区地域振興課副主査	大場 優
小高区地域振興課副主査	原田 翔（書記）
こども育成課長	猪狩 忠信
こども育成課幼児育成係長	佐藤 陽子

## 1. 開 会

### ○事務局

只今より令和3年度第5回小高区地域協議会を開会いたします。本日の会議の成立要件につきまして、事務局より報告を申し上げます。

本日の欠席委員は、本田 博信委員、堀内 洋伯委員、飯塚 宏委員、半谷 恵美子委員です。地域協議会委員15名中、11名の出席ということで、過半数を超えております。協議書10(2)により、本日の会議は成立しております。初めに、林会長からご挨拶をお願いいたします。

## 2. 会長あいさつ

小高区地域協議会 林会長よりあいさつ

## 3. 議 事

### ○事務局

議事の進行については、規定により、会長が会議の議長となります。林会長、よろしくをお願いいたします。

### (1) 議事録署名人の指名

#### ○林会長

それでは、次第により議事を進めてまいります。

はじめに、会議録署名人の指名ですが、会議録署名人は、西山 喜代子委員、田中 由里子 委員の2名にお願いします。

### (2) 報告事項

#### 報告事項①

南相馬市保育園及び幼稚園の一部の廃止（素案）に係るパブリックコメント手続きの実施について

#### ○林会長

それでは、報告事項①の「南相馬市保育園及び幼稚園の一部の廃止（素案）に係るパブリックコメント手続きの実施について」を議題といたします。担当課より説明をお願いします。

こども育成課 資料1により説明

○林会長

それでは、只今の説明について意見又は質問があれば、お願いいたします。

○林会長

では、私から何点か申し上げます。

現在は、休園しているということで施設を利用しているおさまはいないという理解でよろしいでしょうか。そうであれば、今後利活用一貫として子育て支援センターとして活用する場所もあるということですので、支援センターとして運用いく上でのスタッフ等の手当てはどのように行っていくのか教えてください。

○こども育成課長

子育て支援センターは、現在、原町区の原町あずま保育園に併設しております。そこに現在スタッフがおるわけですが、来年度、子育て支援に係る職員の募集の状況をみながら、例えばそれが補充できないということであれば、あずま保育園に併設している原町子育て支援センターの方から人を派遣しながらやっていきたいと考えております。

今後そのあたりについては、検討を進めていきたいと考えておりますが、なるべく利用者の方に満足していただけるようなサービスをしていきたいと考えております。

○林会長

わかりました。勉強不足で大変申し訳ありませんが、幼稚園・保育園と子育て支援センターとで明確な違いというのはどのように考えればよろしいでしょうか。

○こども育成課長

まず保育園ですが、簡単に申し上げますと、ご両親がお勤めになっていて、日中の時間、0歳～5歳児のおさまをどなたもみることができないため預かる施設です。

次に幼稚園ですが、お父さんがお仕事をされていて、お母さんが専業主婦など日中の時間、おさまをみれますというご家庭で、3歳以降のおさまを預かる施設です。

最後に子育て支援センターですが、保育園・幼稚園等に通っていないおさまが主な利用者になるかと思いますが、主に0～2、3歳程度のおさまがお母さんと一緒に子育てをするためのリズム体操や手遊びなどの事業を行う施設です。併せて、子育て支援センターには、一時預かりというものがございます。これも保育園・幼稚園等に通っていないおさまを預

かるもので、例えばお母さんが今日急遽子どもを見ることができなくなったといった場合、一時的に預かるものでございます。

#### ○林会長

それ以外で皆さまから何かございませんか。

#### ○今村委員

今、働き方改革で、児童の預け入れについて議論がされております。わたくしの職場も預け入れ先がなくて困ったと職員から報告を受けております。ただ、今の南相馬市の状況ですと、施設を廃止して将来に向けて規模を縮小する傾向なのかなと思われるのですが、現在の子育ての構想と南相馬市の対応が逆行しているのではないのでしょうか。実際には0歳でいえば、優遇されていて育休をもらってお休みをとれるわけですが、その後からは預けないと仕事できないですね。だからみんなで預けたいと思っていても預けられず、小高で働くのに相馬市に預けて、そこから出勤する職員もいます。職場の近くに預け先があれば、かなり良いなと思っていますが、地元の利用者だけに限定して調査をするとあまりいないのかなという結果になってしまうので、全体的に職場調査をしながら、希望要件を満たしていくような育児体制、施設の在り方も必要かなと思っているわけですが、どうでしょうか。

#### ○こども育成課長

まず、調査についてですが、石神第一幼稚園、石神第二幼稚園のことに關して申し上げますと、地元の行政区長さんの一部の方が反対をしております、ご自宅の方で保育をされている方や現在既にお子さんを預けている方のニーズ調査をさせていただいたということで、石神第一・第二幼稚園の部分について細かく記載をしているところでございます。

どちらかといいますと、今後の幼稚園の利用はどうなのかといったところがあります。実際、ニーズ調査をしてみると、保育園の利用ニーズはとても高く、地元の石神第一・第二幼稚園を開いた場合については、ほんの少数の方しか利用がないといった結果がみえました。ニーズがあれば開けばいいじゃないかというお話もあるかと思いますが、実は幼児保育を考えていく中では、少数の子どもさんの教育をすることと、集団教育で行っていく場合とでは、メリットとデメリットがありまして、どちらかというところ、集団教育をしていかないと、子どもの自主性や協調性などの幼児期に必要な資質を育むことができないのではないかとというのが我々サイドの想いでありまして、わずかなニーズはあるものの、石神第一・第二幼稚園については、一定程度集団を確保していきたいというところで廃止をするものでございます。

冒頭でございました点については、保育園の部分かと思います。南相馬市の待機児童につきましては、毎年4月1日現在、待機児童はゼロとなっておりますが、その後、5月以降になりますと、育休明けや出産を終えて一定程度経った方が職場に復帰したいという利用の申し込みはございます。

ただ、特定の園、例えば原町のどこどこ園を希望するなど、他の園は空いているのですが、そこだけを希望してしまうとどうしても入れない場合がございます。そういった特定利用があることと、実際の聴き取りの中で、お母さん以外でみてくれる方がいることが分かってきますと保育園の入園というのは中々難しくなるといったところで、誰もが保育園に入れるという仕組みにはなっておらず、おそらく先ほどおっしゃられたようなギャップが生じているのではと思います。子どもの利用ニーズと今後の施設の廃止部分でギャップがあるのではないかとご意見がありますが、一人一人のニーズに合わせていくとなると、保育園や幼稚園に預けたいという気持ちはおそらく強いかと思いますが、実際に本当に預けなければならない方と預ける必要のない方というのも当然いるわけです。そういったところや今後の子どもの数を見合っていきますと、施設の数も過剰になっていったところがあり、今回施設を廃止するものであります。

#### ○今村委員

現状はむしろ逆だと思います。私のところも預け先がなくてやむなく辞める職員がいるんですよ。どうもこの調査というのは思考が現実とは逆行して、子育て支援が縮小していくことに個人として疑問を感じます。現実と違うと思います。

#### ○こども育成課幼児育成係長

只今いただいたご意見ですが、実際に南相馬市は、保育園は0歳から通え、3歳から幼稚園に通えます。おおむね3歳以上というのは、集団生活が必要になるということで、各区にそれぞれ0歳から預けられる施設がありますが、幼稚園のニーズとしては、震災後すごく少なくなっています。今委員さんがおっしゃられたように、ご両親とも働いていて幼稚園よりも保育園のニーズが高くなっております。待機児童といわれているお子さんの年齢というのは、南相馬市の場合、3歳以上はおりません。3歳以上の場合、だいたい希望すれば保育園なり幼稚園なり、どこかに入ることができる枠はあります。今、待機児童と言われている方は、0歳から1、2歳、その方が年度途中で預けたいとなった場合に、南相馬市の認可保育施設といわれているところは、皆さんのニーズに応えられるように4月におおむね一杯一杯入れるんですね。そうすると年度途中は、その方の中で退園する方がいないと、次の枠ができ

ないという部分があります。今回廃止する施設というのは幼稚園になります。幼稚園ですと3歳以上しか預けられません。残っているなかまち保育園については、保育園ですが、やはり施設が老朽していたり、給食施設が使えなくなっていますので、その施設を保育園として使うのは難しいところがございます。そういったところで、今回廃止する施設につきましては、保育園の利用としては無理だということと、幼稚園の利用の部分については今利用している施設で足りているところがございますので、ご理解をいただきたいと思います。ただ、0～2歳の受け皿としては、認可保育園が一杯の場合は、市内に2か所、認可外保育施設というものがございます。どうしても認可に預けられない場合は、認可外をご案内しまして、そちらの方もご利用できますよ、ということで施設の案内を同時に行っておりまして、そちらをご利用されている方ももちろんたくさんいらっしゃいます。あとは、企業の中では、事業所内保育ということで独自に保育施設を設けて、働いている従業員の方のお子さんをそこで預かるところが市内に3か所ございます。そのような方のための利用援助もございます。

#### ○小林委員

おそらく石神が反対しているというのはこれを見ると石神地区に保育園がなく、幼稚園しかないからですよ。やはり、女性や高齢者も働けといわれているこの時代に子どもたちを預ける場所が減らされるというのは逆なんじゃないのかなという気がします。だからもう少し市の方で認可に全部移行するのではなくて、市としてきちっと子どもたちを育てる、預けるという場所は必要なんだと私は思います。私も柏で保育士をしていましたけども、やはり、私立より公立に入れたいという親がすごく多かったです。だから、そういうニーズをとらえる方がこれからの南相馬市の幼児教育に必要なかと思ひ、意見として言わせていただきました。

#### ○こども育成課長

ご意見ありがとうございます。先ほど子育て支援センターの話が出ましたが、南相馬市ですと、どちらかというご家庭でみるか、保育園でみるかの2つの選択肢しかなく、先程申し上げました子育て支援センターの中でも一時預かりという中間的なところの充実も図っていきながら、それぞれの保育ニーズに合うような形や、当然ながら窓口でお困りのことを解決できるように丁寧に対応していきたいと思いますのでご理解の程、よろしくお願ひしたいと思ひます。

### ○小林委員

今の時代、聞いていると障碍を持っていたり、支援しなければいけないお子さんが多くいらっしゃるということで、それに対しての研修というのは必要だと思うんですね。私も障碍をお持ちのお子さんの対応をしたことがあるんですけども、そういう対策というのは、市としてきちっとケアできるような保育士の支えが必要ではないかと時々思います。支援といっても、ただみているだけの支援ではなくて、子どもたちとどう関わるかというのが大事だと思うんです。ただみてるだけというのは聞くんですね。怪我させないように、とか。そうではなくて、色々なことをするので、もうちょっと市として研修という形で行った方がいいと思います。すべて民間ではなくて、市もきちっと関わってほしいなとは思っています。

### ○今村委員

参考にもう1点きかせてください。

一人のお子さんまではなんとか大丈夫だと若い方が言っています。ところが、二人、三人になったらもう駄目だということですよ。だから、二人あるいは三人産んだら職場を辞めるか、それとも生まないかという選択に迫られているんですよ。これ現実ですからね。今、子どもを産んで、なんとか生活しようとする立場にない人にはこの現実は分からないと思います。だから調査結果で、そうは言うけども、現実とは違うという認識に立った上でもう少し内容に精査をかけた上で、縮小にならないようにしていただけると有難いなと思っています。全国的にこんなに子育てが問題になっているのに、南相馬市は大丈夫だっていうのはないような気がするのが私の意見ですが、どうなんでしょうか。

### ○こども育成課長

資料には書いておりませんが、南相馬市の保育のニーズは全国よりも数段高い状況です。0歳の保育の預け程度が全国ベースでいうと20%程度ですが、南相馬市は30~40%。1歳は、全国よりも10%程高い状況になっております。そのような状況の中で、震災後、色々な条件の中で休園していたというのがありますが、この間、子どもの数が減少していく中で、保育の受け皿としては2020年に150人枠を増やしております。そこで待機児童が解消できているといったところもあります。今後さらに子どもの数が減少していく中では、今現在休園している施設については、もう役割を終了しているというところが我々としてはございます。今、特に委員さんがおっしゃられました、二人、三人になると駄目だといったところについては、申し訳ありません、そちらはそれぞれのご家庭の部分で聴き取りをしなくてはなんとも分からないところがございますが、

保育の受け皿として特定しなければ十分準備できていると考えておりません。

#### ○橋委員

今のお答えだと、少なくなっていくたらどんどん縮めていき、縮められればどんどん少なくなっていくのサイクルになっていると思います。逆にこれだけの手厚い支援があります、とかあれば、若い人たちはそういうところに来るんですよ。なので、もう少し老朽化等で、閉鎖するありきではなくて、もっと現実に働いている方たち、お母さんたちの話をきいて、それだけの受け皿をきちんとしていただきたいと思います。逆に縮めれば、どんどん負のサイクルになっていってしまうと思うので、そこを充実させれば、若い人たち見ててちゃんと入ってくる人たちもいると思いますので、そこをもう一度考え直していただければかと思います。

#### ○こども育成課幼児育成係長

先ほども申し上げておりますが、今回廃止する施設というのは幼稚園です。幼稚園は3歳以上が利用できる施設であり、今ニーズがあるというのは主に0歳、1歳になります。その部分については、例えばですが、おだか認定こども園が、小高区に1つあります、ここの施設、利用定員が123人ですが、今預かっているお子さんは60人くらいということで、地域のお子さんの数や先生の数などで調整をしてその数字になっているところで、そういった0歳～2歳のニーズが高いところについては、今の既存の施設で保育士をもう少し多く配置することができれば、受け入れることが可能なんですね。廃止しようとしている施設はあくまで3歳以上が対象です。3歳以上は今、ほぼ在住しているお子さんの100%は通えています。ですので、そのところは逆にご理解いただきたいと思います。

#### ○阿部委員

おだか認定こども園の話がございました。実際には保育園の部分で60人定員の中で利用者は40人くらいですかね。参考までに、小高区に住んでいない区外のお子さんは何人入園していらっしゃいますか。

#### ○こども育成課幼児育成係長

6割くらいは小高の方、あとは原町区と鹿島区の方が勤務の都合等で預けている方もいらっしゃいます。

#### ○阿部委員

そうすると先ほど職場の関係で、たまたま小高の職場に勤めている方が、



おだか認定こども園を利用している方もいて、そういった施設に入る融通も利くわけですよ。

○こども育成課幼児育成係長

はい、そのとおりです。

○阿部委員

わかりました。

○林会長

その他、委員の皆様から何かありますか。

今の議論を聴いてますと、やはり保育施設のニーズは高いということで、今の廃止をしようとする幼稚園自体は老朽化が進んでいて、継続するには建て替えなどをしてお金もかかりますし、廃止をして、3ページにも記載がありますが、その施設を幼稚園と保育園を含めたような認定こども園としての新たな取り組みを進めていきたいというようなニーズだと思います。

南相馬市の一つの考えとして、子どもを産んで育てやすい町を作ろう、というようなキャッチフレーズもあるわけですよ。どこからみてもこの地区で居住して、そこで産んで保育から幼稚園から何の心配もなく預けることができるんだ、というような考えが地域に蔓延するようなそういう取り組みが必要なんだと思います。ですから、老朽化して廃止せざるをえない施設はやむを得ないと考えますが、常に子どもの数が減るからということで、今の施設で間に合うという考え方ではなくて、これくらいの子どもさんをこの地区で育てたいと逆に考えていただく。そうするためには何が必要なのか逆算していかないと、その地区としては、やはり子どもの数は増えてこない。増やすためにどういう取り組みをするのかというのが大事な考えの一つになっていくのではないかなと思いますので、その点は十分に由々しながら、今後の色々な計画の中で反映させていただければかと思えます。

今、どの計画でも人が減ってくるからここはいらなくなるよ、という話し合いがいっぱい出てくるんですよ。必ずしもそうではないよと。だから、一つの施設でも、そんな人のいないところにそんな施設作ってどうするんだといいますが、ニーズがあるものを作れば、人がいようがいまいが、そこに人ってというのは寄ってくるんですよ。そうするために何が必要なんだということを考えないと、やはり市としても今、震災で減った人口をこれから先、ずっとそのまま減っていくんだという考え方では市の発展はない。そうではなくて、人数を増やすため、人口を増やすため、居住者を増やすために、じゃあ今何が必要なのかを考えてください。

子どもさんを産んで育てようといった矢先に、今、産婦人科がなくなって

いるんですね。そういう状況で、本当に市として子どもを産んで育てるなんてことが言えるのかと、ちょっと心配される部分もありますので、そういったことを踏まえて、今後もよろしくお願いします。

○小牛田委員

今、林会長がおっしゃったことに私も大賛成で、今会長は産婦人科とおっしゃいましたが、私が若い人から聞いているのは、小児科がないと子育てが不安だから、帰りたくても帰れないという意見が私の耳にだいぶ入ってきています。そういう産婦人科や小児科などの子どもに対する手当てをきちんと考えていかないと、本当に若いお母さん方が小高や原町に戻って生活しようかなという風にはならないと思いますので、その点を含めて、それができるのは公的な原町の病院などだと思いますが、最初だけは採算を度外視するしかないと思います。やはり準備していかないと子どもたちや子育ての人たちは病気の時一番心配なんだそうです。産婦人科や小児科はどこに連れて行ったらいいんだ、とききます。

○林会長

今、小児科は原町のどこにあるんですか。

○小高区役所長

市立総合病院では入院できるようになったときいております。

○林会長

それ以外に、皆さんから何かございますでしょうか。それでは以上で、報告事項①を終わります。

## 報告事項②

### 原町区認定こども園基本構想（素案）に係るパブリックコメント手続きの実施について

○林会長

それでは、報告事項②の「原町区認定こども園基本構想（素案）に係るパブリックコメント手続きの実施について」を議題といたします。担当課より説明をお願いします。

こども育成課 資料2により説明

○林会長

それでは、只今の説明について意見又は質問があれば、お願いいたします。

○今村委員

原町区認定こども園の場所はどちらになる予定ですか。

○こども育成課長

候補地は3箇所程あげて検討しております。主に道の駅周辺や国道6号線東側の市有地です。

○阿部委員

公私連携法人選定委員会は、こちらのスケジュール上では、令和4年1月から3月の中で募集要項などを決めていくと思うのですが、参考までに、こういう形態で認定こども園を開設している自治体は近辺にありますか。それを参考にされるのでしょうか。

○こども育成課長

実際に公私連携を導入しているのは福島県内では小野町1か所です。須賀川が民営化に向けた色々な手続きを行っておりまして、そちらも参考にしています。東北地方ではあまり公私連携が進んでおらず、近県では、茨城県、千葉県、あとは関西方面という形になっております。今後、先進事例をみながら進めていきたい思います。

○阿部委員

説明を受けてると本当に良い制度だと思うのですが、ただ法律が最近できたばかりなんですよ。そういったところで中々東北では制度を活用しているところが少ないということなんですよ。小野町の場合は、既に開設して運営しているのでしょうか。

○こども育成課長

小野町については、現在施設を建設中です。

○今村委員

参考までに教えていただきたいのですが、6ページの財産負担等比較表の中で、施設整備費、これは県が費用負担がなく、市が1/2分の1ですが、なぜこんな割合が低いのか。県と市はあまり施設整備には関係なく、運営費は県と市で費用を出すんですか。

#### ○こども育成課長

施設整備はどちらかというと国が主導になり、運営費は、施設型給付という事で県と市も費用を出します。

人件費や事務費などの基本的な額でやろうとすれば、この運営費だけで賄えるという仕組みです。プラスアルファで行うと事業者の負担になります。

#### ○林会長

今回の話は、報告事項①と全く同じではないですが、子どもを育てるという意味では延長線上の話かと思います。このような施設が充実していけば待機児童の心配をしなくてもいつでも預けられるようになると思います。

こういう施設も定員がいっぱいになる経営ではなくて、必ずここには10%、20%余裕があって、いつでも受け入れられるようでないで、本当の子どもへの取り組みにはならないと思います。ただ、事業者さんからすれば、そんな余裕をもってやれないと言われるかもしれないけども、やはり要望としては、地域に住む人間としては、そのような余裕のある計画の中で事業運営がされれば、一番いいわけですね。単純に言えば南相馬市だけでなく、他の地域の方を受け入れてもまだ余裕があるという運営ができればいいですね。

#### ○橋委員

土地や建物などの費用はまだこれから決める部分が多いかと思いますが、だいたいどれくらいかかるものでしょうか。

#### ○こども育成課長

説明が漏れていて申し訳ありません。

土地については、市が提供します。建物の中の備品については民間事業者に整理していただきます。土地代については今後法人募集の中で定めていきます。主に先進事例からいいますと、10年、15年、20年あたりで無償貸与をとっているところが多いというのが現状です。

建設費用については、小高認定こども園が6.8億円かかっています。それを受け入れる子どもの数でならしますと、だいたい9.5億円程かかるのではと思います。公私連携法人さんがどういう建物を建てるか、デザインを凝れば高額になってしまいますし、1階建てなのか2階建てなのかでも変わってくるところでございますが、おおよそそのくらいの額かと思います。

#### ○今村委員

この敷地の土地はだれが取得して、所有権は誰になりますか。

○こども育成課長

先ほど申しあげました土地については、候補地はすべて市が持っている土地です。

○林会長

その他、委員の皆様から何かありますか。

意見がなければ、これを持ちまして報告事項は終了いたします。

#### 4. その他

##### (1) 令和3年度小高区地域協議会 先進地視察研修について

○林会長

次に、その他として、「令和3年度小高区地域協議会 先進地視察研修について」でございます。担当課より説明をお願いします。

小高区地域振興課から当日資料により説明

○林会長

前から視察研修ということで検討を重ねてきたわけですが、コロナ禍で、出かけての研修は相手先も受け入れが難しいということから、無理だろうということで話を進めております。

今年度の研修内容ですが、皆さんのお手元にお配りしております、徳島県上勝町のオンライン視察のご案内にも記載があります。皆さんも内容についてご存じとは思いますが。

いろいろ事業というのは農家のおじいさん、おばあさんが葉っぱを集めて販売するという事業展開をされていて、こちらに書いてあるとおり、年商2億6千万円のビジネスになっておりまして、その取り組みについて伺います。

次に、ゼロ・ウェイストについてです。焼却ごみと埋め立てごみをなくす最善の取り組みをされていらっしゃるということで、そのお話を伺います。

南相馬市は全国的にみてもごみが多く、ごみを減量化する必要がありますし、プラスチックの分別も進めなくてはいけなくなっています。私も目がだんだん見えなくなってきましたが、果たして梱包されているプラスチックとビニールとの区別がつくのかなと思うようになってきました。すべてのプラスチック製品にはどこかにマークが書いてあります、目の前のペットボトル、ペットボトルラベルもプラスチック製品ですね。そういったプラスチックも含めた分別をどのように取り組んでいるかのお話を伺います。

これを受けて、研修の日時などは改めて調整が必要ですが、実施するかしないか、皆さんのご意見をお伺いしたいと思います。

○今村委員

ごみを45種に分別して再資源化する取り組みについて研修をしよう  
と、そういうことでよろしいですね。

○林会長

はい、そうですね。

○今村委員

ごみの減量化については、今問題になっている重要な事柄ですから良し  
とします。けれど、私が念願としているのは、この小高の町がご承知のと  
おり、どんどん高齢化に向かっているため、今後町をどうしたらいいの  
か、特に人口が減少するばかりで地域活性化がどうにも生み出せていない  
ため、どこかいい場所があれば、参考にしたいと考えています。

このままでは、町がどんどん疲弊している気がしてしょうがないです。  
小高の町に明るい兆しがみえるようなものを発掘できる、そんな視察研修  
が行えればと思っています。

○林会長

地域協議会や行政区長連合会などの過去の視察研修では、高齢者に対  
する取り組みを実施している地域を何か所か周った経過があります。

しかし、いずれも取り組みは分かりますが、小高区のように中間層がい  
ないという地域はどこにもありません。徐々に高齢者が増えてしまうが、  
次の後継者は少なからずいるという地域ばかりで、小高区のように、40  
歳から60歳の中間層がいなくなっている地域は、今までにはなかったと  
記憶しています。

今回の徳島県上勝町は、ごみの分別についてどのようなことしているの  
か聴きたいというのと、上勝町が高齢者対策でどのようなことをされてい  
るのかこちらから質問してもいいではないかと考えています。いかがでし  
ょうか。

○今村委員

反対はしておりません。内容には賛成です。ですが、私の集落で草刈り  
を行ったり、集会所を掃除したりしましたが、本当に若者がいない。老人  
クラブで地域を守っている現状です。小高区の課題は、起業家や若者を呼  
び込んでなんとか人口を増やしていかないと、良くなっていかないと私は  
考えています。もちろんごみも大事ですけどね。

○林会長

色々議論はございますが、実施するということを方向で、内容は上勝町でよろしいでしょうか。異議はないということなので実施の方向で進めたいと思います。

他に何かございますか。

○小高区市民総合サービス課

今年度の敬老会についてご報告申し上げます。今年度につきましては、小高区、鹿島区、原町区すべて中止と決定いたしました。

小高区につきましては、9月22日に中止の通知を皆様にお送りしたところでございます。

経緯についてご説明申し上げますと、当初小高区につきましては、9月18日に開催予定でしたが、コロナ禍ということで11月13日に延期しておりました。ただ、今後先が見通せないということで、今年度は中止と決定したところでございます。延期の部分が中止ということで、皆様には大変紛らわしい結果となってしまいましたが、どうぞご理解いただければかと思えます。わたくしからは以上です。

○林会長

他に何かございますか。なければ進行を事務局にお返しいたします。

## 5. 閉 会

○事務局

以上をもちまして、令和3年度第5回南相馬市小高区地域協議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

令和3年度第5回小高区地域協議会会議録

会議録署名人 西山喜代子

会議録署名人 田中由里子